

立命館大学アート・リサーチセンター
 文部科学省 共同利用・共同研究拠点「日本文化資源デジタル・アーカイブ研究拠点」
 2017年度 共同研究成果報告書〔研究費配分型〕

2018年4月23日 提出

1. 研究課題名	
ARC 古典籍データベースを利用した近世版本における「版(edition)」の変遷に関する研究 (英文標記: _____)	
2. 研究代表者	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
松葉 涼子(まつばりようこ)	ロンドン大学 SOAS・リサーチアシスタント 立命館大学・プロジェクト研究員
3. 研究分担者 (合計: _____ 名) ※アート・リサーチセンター所属者は、「ARC 所属教員欄」に○印を付してください	
氏名(ふりがな)	所属機関・職名
Ellis Tinios(エリス・ティニオス)	リーズ大学名誉講師・立命館大学客員研究員
Stephanie Santschi(ステファニー・サンチ)	大英博物館・リサーチアシスタント
山本嘉孝(やまもと よしたか)	大阪大学・講師
John Resig(ジョン・レシグ)	Khan Academy・staff engineer
李増先(り・そうぜん)	立命館大学・ポストドクトラルフェロー
金子貴昭(かねこ たかあき)	立命館大学・准教授
Ellis Tinios(エリス・ティニオス)	リーズ大学名誉講師・立命館大学客員研究員
Stephanie Santschi(ステファニー・サンチ)	大英博物館・リサーチアシスタント

4. 研究課題の概要(300字程度) (申請書から変更がある場合は、変更点分かるように明記してください)
本研究では ARC 古典籍データベースを利用して、近世版本の版の変遷について整理することを目指す。版木の板木は、何度も刷られる内に痛みがはげしくなり、また何らかの理由で損傷したり、内容を書き換えなければいけなかったりなど、修訂がほどこされることもあって、浮世絵などと同様に、状態を慎重に見比べることによって初印本と後印本の違いがわかる。現在 ARC の古典籍閲覧システムでは、継続的にすすめられているデジタル・アーカイブ活動によって画像が随時蓄積されており、特に『北斎漫画』『富嶽百景』などの絵手本は大量の事例がみられる。データベースの画像情報を利用しながら同じ版本での版の違いを詳しく見比べられるようなシステムがあれば、版面の変化から出版過程をたどっていくことができる。以上をもとに近世出版文化の重要な側面である版の変遷について明らかにしていきたい。
5. 研究成果の概要 (この項は、本センターのホームページ・紀要等で公開することがあります)

月一回のスカイプでの研究会を東京(学習院大学)、京都(立命館大学)と共同で継続的に行った。学習院大学、國學院大學、立命館大学、大阪大学の研究者、院生が参加し、ロンドンからは北斎プロジェクトのメンバーが中心となって作品の語釈、現代語訳と英訳を各グループ内で議論しながらすすめている。

ARC古典籍データベースを活用して、北斎版本のデータベースを構築し、研究会に参加している院生に依頼し、本文のデジタルテキスト化を実施した。デジタル化されたテキストの一部は語彙索引作成ツールに統合している。プロジェクト活動を通じた資料蓄積、研究成果である現代語訳、英訳を web 公開することが次の目標であり、ARC テクニカルサポートを通じて運用出来るシステムの構築を目指す。

リーズ大学のエリス・ティニオス氏と『富嶽百景』の版の調査を実施した。大英博物館の「北斎展」にあわせて日本から借用した最善本といわれている『富嶽百景』と大英所蔵本、個人コレクション本の原本を比較し、また古典籍総合目録の画像とも比較して大きくわけて五種類の版の違いがあることを明らかにした。あわせてティニオス氏はポルトガルで行われた EAJIS で北斎画『絵本孝経』の版の違いについても研究発表している。

イメージマッチングシステムを独自のサイトで運営しているジョン・レング氏の協力を得て、複数の画像から同じ画像を引き出してこられるようなシステムを使って版の変遷を考えていくためのシステム構築についての打ち合わせを行った。

6. 研究業績

(1) 著書

・「Hokusai: Beyond the Great Wave」、Timothy Clark 編 (共著: Angus Lockyer, Alfred Haft, Roger Keys and Matsuba Ryoko)、2017 年 5 月、Thames & Hudson、352 頁

(2) 論文

・「縮模版 富嶽三十六景をめぐる」、単著 松葉涼子、2018 年 3 月、太田記念美術館 『論集』

(3) 研究発表等

・Ryoko Matsuba 「An Example of an International Collaboration Project: The British Museum and Art Research Center, Ritsumeikan University」、2017 年 7 月、International Conference Japanese Cultural Studies outside of Japan – its current status and future perspectives (Norwich Cathedral Hostry)、査読無

・Ryoko Matsuba 「The Sound of Edo」、2017 年 12 月、At the Roots of Visual Japan (The Faculty of Asian and Middle Eastern Studies, The University of Cambridge)、査読有

(4) 主催したシンポジウム・研究会等

・「READING THE PREFACES TO HOKUSAI'S BOOKS (6)」、2017 年 6 月 27 日、12 人、於:大英博物館、立命館大学アート・リサーチセンター

・「READING LETTERS BY HOKUSAI AND OI (3)」、2017 年 7 月 7 日、11 人、於:大英博物館、学習院大学

・「READING THE PREFACES TO HOKUSAI'S BOOKS (7)」、2017 年 8 月 8 日、12 人、於:大英博物館、立命館大学アート・リサーチセンター

・「READING THE PREFACES TO HOKUSAI'S BOOKS (8)」、2017 年 9 月 12 日、8 人、於:大英博物館、立命館大学アート・リサーチセンター

・「READING LETTERS BY HOKUSAI AND OI (4)」、2017 年 9 月 22 日、9 人、於:大英博物館、学習院大学

・「READING THE PREFACES TO HOKUSAI'S BOOKS (9)」、2017 年 10 月 6 日、15 人、於:大英博物館、立命館大学アート・リサーチセンター

・「READING LETTERS BY HOKUSAI AND OI (5)」、2017 年 10 月 12 日、8 人、於:大英博物館、学習院大学

・「READING LETTERS BY HOKUSAI AND OI (5)」、2017 年 10 月 12 日、9 人、於:大英博物館、学習院大学

・「READING THE PREFACES TO HOKUSAI'S BOOKS (10)」、2017 年 11 月 29 日、12 人、於:大英博物館、立命館大学アート・リサーチセンター

・「READING LETTERS BY HOKUSAI AND OI (6)」、2017 年 1 月 26 日、8 人、於:大英博物館、学習院大学

・「READING LETTERS BY HOKUSAI AND OI (6)」、2017 年 2 月 19 日、8 人、於:大英博物館、学習院大学

・「READING THE PREFACES TO HOKUSAI'S BOOKS (11)」、2018 年 2 月 22 日、10 人、於:大英博物館、立命館大学アート・リサーチセンター

